

INFORMATION



パース作成 (株式会社ムラヤマ)

《ご案内》

お知らせ!

本部展示室のリニューアルについて

第3号でお知らせした通り、上のイメージ図のような展示室が7月頃(予定)にオープンします。

新展示室では新たな展示方法と選りすぐりの遺物を展示し、今まで以上に解りやすく、また見やすい展示を目指したいと職員一同張り切っています。

日頃からご高配を賜っている皆様方にはご迷惑をおかけしておりますが、今暫くのご辛抱をお願い申し上げます。

平成12年度行事案内について

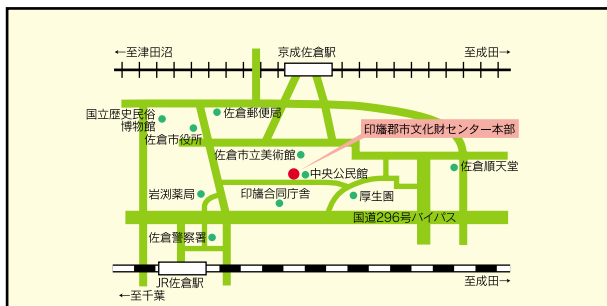
昨年に引き続き、本年も以下のような普及事業を予定しております。

- 1. 新展示室常設展示 発掘調査の方法から報告書のできるまでの工程を、写真や道具の展示によって解説する企画です。(7月頃予定)
- 2. 遺跡発表会 印旛郡市内で発掘された遺跡を取り上げ、調査・整理作業を通じて分かった、遺跡や遺物の性格について発表をする企画です。本年度は、佐倉市内の縄文時代から奈良・平安時代の遺跡を予定しています。(7月下旬予定)
- 3. 移動博物館 「地域に密着した埋蔵文化財」を目指し、遺跡の発掘された地域の施設に赴いて、展示を行う企画です。(8月~10月頃を予定)

《発掘中の遺跡》

がんばっています!

- 佐倉市 先崎西原遺跡(古墳時代)
- 松向作遺跡(古墳時代)
- 内田端山越遺跡(縄文・古墳・奈良・平安時代)



《室内作業》

こつちをやっています!

本部

- 佐倉市鍋木198-3 ☎043(484)0126
- 権現堂遺跡(四街道市、古墳時代~中世)
- 南作遺跡(四街道市、縄文~奈良・平安時代)
- 浮矢遺跡I(四街道市、奈良・平安時代)
- 先崎西原遺跡(佐倉市、古墳時代)
- 下勝田殿台東・大辺松向遺跡(佐倉市、縄文時代)

成田事務所

- 成田市飯仲字台畑330-1 ☎0476(26)7208
- 菅本宮後遺跡(佐倉市、古墳~奈良・平安時代)
- 郷野遺跡(四街道市、弥生~古墳時代・中世)
- 川業館跡(成田市、古墳時代、奈良・平安時代、中世)

《おしらせ》

上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡下さい。詳細は本部へお問い合わせを! 本誌は、年4回の発行の計画です。第5号は7月発行の予定です。今号のご意見などをお聞かせ下さい。

広報誌 フィールドブック vol.4 発行・編集 財団法人 印旛郡市文化財センター 〒285 0025 千葉県佐倉市鍋木町198-3 ☎043 484 0126(代) ☎043 484 9871 平成12年4月15日



本佐倉北押出し遺跡



障子堀



井戸跡からみつかった貝

今年の1月に調査が行われた本佐倉北押出し遺跡は酒々井町に所在します。本遺跡は、千葉氏の居城として15世紀中ごろ~16世紀末に栄えていた本佐倉城に伴う外堀です。検出された規模は幅が約7m弱、深さが約3m弱、長さは約32mで、断面の形状は逆台形をしています。

この堀の特徴は、北条氏の築城技法であった障子堀という技法が採用されている所で、これは敵が堀の中を自由に走れないように設けられました。底面に深さ約1m、幅約5mの掘り込みが2mおきに5基検出されています。

その他、中段には柵列の柱穴の跡が並んで検出された他、堀の中からは廃城になってから掘られたと考えられる井戸の跡が2基検出され、その内の1基からはハマグリやアサリなどの2枚貝を主体として、アカニシやアワビなどの貝殻が多量に出土し、当時の生活がうかがい知れます。

宮本宮後遺跡 B地区(第2次)



佐倉市宮本宮後遺跡 B地区



1999年9月から2000年2月にかけて発掘調査を行った古代の集落跡「宮本宮後遺跡 B地区」を紹介しながら、発掘の調査工程について触れていきましょう。

< 宮本宮後遺跡 B地区 >

宮本宮後遺跡は国道51号線と東関東自動車道の交差する台地、佐倉市宮本に所在します。

高崎川に注ぎ込む南部川とその支流勝田川に挟まれた台地は、古墳時代から平安時代にかけて小規模ながらたくさんの集落が営まれていたことが今までの調査によって明らかになっています。

宮本宮後遺跡はA、B、Cの3地区に分かれ、今回調査した地域はB地区の2回目の調査にあたります。今回の調査では31軒もの竪穴住居が確認され、おおよそ古墳時代も終焉を迎える7世紀の後半から平安時代の始まる8世紀末から9世紀前半にかけて営まれていた集落と考えられます。

< これであなたも調査員? >

発掘調査はご存じのとおり、「掘り」と「記録」という作業を繰り返しながら進められます。もちろん発掘のメインは文字通り「掘り」の作業になるわけですが、掘り進んでいく過程の中で、記録作業をいかに細密且つ効率的に(そして美しく)行うかが調査員の腕の見せ所にもなってくるわけです。

この記録作業は、大まかに分けて①埋没過程を判断する土の層 ②土器などの遺物を発見した状況 ③掘り上げた住居・遺構の全体像という3種類の情報を記録することが一般的です。

今回は宮本宮後遺跡で行った竪穴住居の調査をモデルに作業工程を見ていきましょう。

土層の情報を記録する



色、成分の差で土を分けるラインを引く
(勝負は目!!)



3次元的に埋没過程を見るため十字のベルトを残しながら掘り進む

土層の情報を書き込んで完成
(土の埋まり方がPointだ)



遺物の出土状況を記録する



土器が出たままの状態掘り、遺物が出た位置と標高を記録 (今回は微細図を作成)

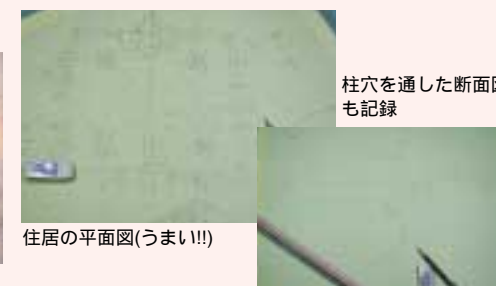


完成図「微細図は美しさが命だ」

住居の形状を記録する



完全に掘り上げた竪穴住居



柱穴を通した断面図も記録

住居の平面図(うまい!!)



最終的に遺跡の全測図も作成(ここまでできればプロ)

上記3段階の中で作成された記録図面・記録写真、そして調査員がつけた観察帳(フィールドブック)を基に整理作業を行い、報告書として一冊の本にまとめ上げることで、ようやく発掘調査が終了するのです。

宮本宮後遺跡B地区(第2次)の整理作業は2000年4月に始まります。(我々の眠れぬ日々とともに...)